帰国研修員との交流

【日系研修フォローアップ】

第３回ブラジル日本文化福祉協会農業関連交流会の皆さん。

ブラジル日本文化福祉協会の木田八郎会長（左）と一緒に安倍総理（右）が文教ビルを訪問されました。

１）出張者　：コースリーダー　三木 義男

２）面談者　：ブラジル国日系帰国研修員の皆さん

２０１４年１０月２３日

（公財）北九州国際技術協力協会　研修部

～日系研修で勉強された帰国研修員の活動状況フォロー～

今回、ご紹介します帰国研修員便りは、日系研修で勉強されたブラジル研修員の帰国後の活動状況です。三木コースリーダーがブラジルへ出張した時の帰国研修員との面談結果と帰国後のメール交信で得られました最新情報をご紹介します。

ブラジル訪問記とその後の帰国研修員からの活動報告

ＪＩＣＡ九州が募集する「日系研修員受入事業」にＫＩＴＡとして平成１９年度から応募し、計６回、２９名が参加して実施しました。今般、研修の一つの節目として、帰国後のアクションプラン活動のフォローアップを目的として現地訪問しました。ブラジル現地滞在８日間の中で大国ブラジルをほぼ一周する５地域(ｻﾝﾊﾟｳﾛ～ﾄﾒｱｽｰ～ﾍﾞﾚﾝ～ｸｲｱﾊﾞ～ﾌﾛﾘｱﾉﾎﾟﾘｽ）を訪問しました。

その訪問先で帰国研修員の皆さんが、地域の日系社会だけでなく、地域ブラジル住民やブラジル社会の変革を日本研修で学んだ新しい考え方をベースに活動をされている実態を拝見し、本当に「コースリーダーをしていて良かった」と実感しました。訪問の際、地域活性化活動の輪を広げることを目的として、講演テーマ「地域活性化の原点を探る（副題：人生を強く・楽しく生き抜くために！！）」でセミナーを行いました。４地域で約２２０名の多くの方が参加し、地域活性化の興味の高さを認識しました。

今回の訪問は、帰国研修員の活動状況を拝見し私にとって“感謝と感動の旅”でした。今後も、日系人が、ブラジル社会を変革し、存在感を増々高めて行くために日系研修の継続を図るとともに帰国研修員の下支えになればと意を決した次第です。

次に、ブラジル訪問後に、ブラジルで面談した帰国研修員からその後の活動状況が、刻々にメールで交信してくるようになりました。ブラジル訪問後に帰国研修員と頻繁に交流（交信）ができるようになったのも訪問によってＦａｃｅ　ｔｏ　Ｆａｃｅのコミュニケーションが出来たからだと思います。
帰国研修員の近況報告を“帰国研修員の活動状況”でご紹介いたします。

1. 今回訪問したブラジルの各地域

出張期間　2014年3月5日～3月16日

ベレン

ブラジル北部の港町。市内のマンゴー並木が有名。市内には日本人・日系ブラジル人が合わせて約３００００人が住んでいる。

トメアスー

アマゾン河の河口の都市でブラジル北部の日本人入植地として最も歴史が古い街。現在も約３００戸の日本人が暮らしている。

クイアバ

ブラジル中西部、南アメリカ大陸のほぼ中心に位置する。パンタナール自然保護区への玄関口となる。

サンパウロ

人口１１００万以上のブラジル最大の都市で世界８位、南半球では第一位、

フロリアナポリス

サンタカタリーナ島と周辺の小島で一つの都市を形成している。ニューズウイーク誌で「最もダイナミックな１０都市」の一つに選ばれた。

ｻﾝﾊﾟｳﾛでのｾﾐﾅｰ光景（参加者 85 名）

ﾄﾒｱｽｰでのｱｸﾞﾛﾌｫﾚｽﾄﾘｰ（森林農業）の現地視察

2.帰国研修員のフォローアップについて

1)帰国研修員の母国での活動進捗状況を調査及び助言し、本邦研修の成果をレビュー。
2)現地で19名の帰国研修員の皆さんと面談し近況のヒヤリングを実施。

帰国後の主な活動内容

①組織の機能強化(例:在日本ﾌﾞﾗｼﾞﾙｺﾐｭﾆﾃｨ組織の結成など)
②組織機能の導入(例:日系団体事務局のｺｰﾁﾝｸﾞﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの機能導入など)
③仕事の効率化(例:事務局内の業務効率化、業務ﾏﾆｭｱﾙ作成など)
④新規市場の開発(例:生産者の組織化による直販方式など)
⑤エコ活動の実施(例:ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ・ｱﾙﾐの分別回収など)
⑥会員増員活動(例:会員の満足度向上活動と非会員の入会勧誘、
⑦日本語学校の生徒増加、新規組合加入など)
⑧定期的ｲﾍﾞﾝﾄの開催(例:料理教室、日本祭り、花祭り、ｱﾆﾒ学園など)
⑨日系社会の調査(例:一人ひとりの家族調査など)

日本での研修後、研修員が変化したこと

①日本人の意識、役割の合理的自覚、時間に対する考え方
②5S の日常的実践
③仕事に対する責任感、忍耐強さ
④ﾌﾞﾚｲｸｽﾙｰ思考による目的意識(何のために)
⑤短期及び長期かを見極めた計画の立案
⑥日本語勉強のﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ、日本への更なる興味
⑦CS(顧客満足)、環境・ﾘｻｲｸﾙ意識

人材不足や財源不足等の様々な困難に直面しながらも、実行可能な活動から着実に各アクション・プランを実践していることを確認できました。

3. 帰国研修員の活動状況

代表例として下記帰国研修員のレポートをご紹介します。

中島事務局長からのレポート【ブラジル日本文化福祉協会】

【概要】

中島事務局長は、ｻﾝﾊﾟｳﾛにあるﾌﾞﾗｼﾞﾙ日本文化福祉協会の事務局長です。その最新ﾚﾎﾟｰﾄは、平成 26 年 8 月 2 日に安倍総理がﾌﾞﾗｼﾞﾙを訪問した時のﾌﾞﾗｼﾞﾙ日系社会の歓迎会についてです。ﾌﾞﾗｼﾞﾙ日本文化福祉協会の木多喜八郎会長をはじめとし盛大な歓迎会がされました。

その後、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ日本文化福祉協会内の皇太子殿下ご来伯記念大講堂で講演をされました。尚、安倍総理による“日伯戦略的ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟ構築に関する共同声明”がなされたことを付記しておきます。[一部抜粋]

ｉ）2015 年が日伯外交樹立 120 周年であることから、文化面での交流を盛り上げて、日本語教育の普及支援を行っていく。

ⅱ）若い世代の日本への関心を高めるべく、次世代日系人指導者招聘制度の一層の拡充、日系社会次世代育成研修の 100 人への倍増を図る等。

◆中島氏／レポート

研修コース名：日系研修

（平成 19 年度・第一回研修参加）

ここをクリックしてレポートをご一読下さい。

中岡会長からのレポート【サンパウロ文化協会】

【概要】

ｻﾝﾊﾟｳﾛ近郊のｻﾝﾀ･ｶﾀﾘｰﾅ州ﾆｯﾎﾟ･ｶﾀﾘﾈﾝｾ文化協会の中岡会長は、日本研修時のｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝに基づいて、平成 26 年 1 月から“ｱﾙﾐ缶・ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ”の収集活動を開始しました。当協会は、360 世帯約 900 人の日系人からなりますが、皆さんが、ｸﾗﾌﾞ活動等で協会に訪れる際、“ｱﾙﾐ缶・ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ”を持参します。集められた“ｱﾙﾐ缶”は、ｱﾙﾐ会社に売られて協会のﾘｻｲｸﾙ活動運営費となります。一方、“ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ”は、服加工会社に納品されますが、ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ 100Kg で T ｼｬﾂ 30 枚に変換されます。この活動は、小学校へのﾕﾆﾎｰﾑの提供を目的としています。

◆中岡氏／レポート

研修コース名：日系研修

（平成 25 年度・第 6 回研修参加）

ここをクリックしてレポートをご一読下さい。

乙幡会長から写真送付
【トメアスー文化協会】

【概要】

乙幡会長は、「ﾄﾒｱｽｰ文化協会」の会長ですが、ﾄﾒｱｽｰは、1929 年に日本人が始めてﾌﾞﾗｼﾞﾙに入植した歴史ある町で、現在の日系人は、約 320 世帯、約 1000 名です。

乙幡会長のﾚﾎﾟｰﾄでは、安部総理の来伯後に、梅田駐伯日本大使（新着任）が、ﾄﾒｱｽｰ訪問したことと、ﾋﾟｰｽﾎﾞｰﾄ「世界一周の船旅」の乗客のﾄﾒｱｽｰ文化協会の１１家族の協力によるﾎｰﾑｽﾃｨ（民泊）活動報告です。ﾋﾟｰｽﾎﾞｰﾄは、世界一周ｸﾙｰｽﾞとして特に、若者に人気があり、中国（厦門）を出発し、東南ｱｼﾞｱ～ｲﾝﾄﾞ～ｱﾌﾘｶ～ﾖｰﾛ、ｯﾊﾟ～南米～日本～中国（厦門）を１００日間で周ります。船客は、約 2000 人（日本人は、約 800 名）で、費用は、約 200 万円と聞いています。

このﾂｱｰの南米では、ﾍﾞﾚﾝに停泊し、ﾄﾒｱｽｰへの訪問は、２泊３日ですが、今回、65 人の日本人船客が、ｱｸﾞﾛﾌｫｰﾚｽﾄﾘｰ（森林農業）の視察や日系社会との触れ合いです。

その一つが、ｱｸﾞﾛﾂｰﾘｽﾞﾑつまり、日系家族でのﾎｰﾑｽﾃｨです。それから、帰国研修員の日本研修で学んだ「直売場方式」をヒントにﾄﾒｱｽｰ文教婦人部が新設した「直売場」の視察です。

4.ブラジル帰国研修員から送付された写真の一部紹介

◆写真集は帰国研修員レポートに記載されています。

(1)中島事務局長より写真を提供して頂きました

第５回ブラジル日本文化福祉協会統合フォーラム参加者記念写真

安倍総理が文教皇太子殿下
御来伯記念大講堂で講演。

ブラジル日本文化福祉協会
農業関連交流会

(2) 中岡会長より写真を提供して頂きました。

エコロジー待づくりのアルミ缶回収活動

(3) 乙幡会長より写真を提供して頂きました

梅田駐伯日本大使が訪問された時の記念撮影

第３５回ピースボート「世界一周の船旅」がベレンに入港

クルーザー客船のトメアス－原生林の視察

クルーザー客船のトメアス－直売場の視察

5. JICA日系研修事業について（補足）

1. 経緯

JICA日系研修事業とは、「市民参加協力事業」の一つとして、広く日本国内の受入れ希望団体からの提案を受けて実施する提案型の研修員受入れ事業です。

A）昭和46年から「海外移住者師弟研修」として開始。
B）平成9年より「日系研修」として事業名称が変更。
C）平成17年度より市民参加型事業として位置づけ。

2. 日系研修事業の概要

1）目的
中南米地域への日本人移住者子弟である日系人の技術協力を通じ、日系社会の発展と移住先国の国造りに貢献することを目的としています。

2）研修実施機関
地方自治体、大学、公益法人、NGO、民間企業

3）対象国
中南米の12カ国
アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、キューバ、ドミニカ共和国、メキシコ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラ

3. 日系研修事業の特徴

1）市民参加協力事業として求められること。
2）課題別・国別等の技術研修事業との違い。

- *少数の受入れ人数*
  最近の研修員人数 ： 110 名（2012 年）、114名（2011年）、124名（2010年）
- *対象者が日系人に限定*
- *先方政府や所属先組織からの推薦が不要で、個人のステータスで参加が可能。*

以上